

Ⅲ 研究構想図

生きる力
確かな学力 豊かな人間性 健康・体力

21世紀型能力
基礎力・思考力・実践力

体育科における本校児童の課題
1. ゲーム内で勝敗がついた時に、素直に認め合えない。2. 体育への意欲が低い。(学年による)
3. 分かったような顔をして、突っ込んで考えるのを嫌う。4. 体育を単なる「遊び」と思っている。
5. 運動欲求に任せてやみくもに取り組む。6. 多様な運動経験の不足。
7. それ以上はできないという自分へのあきらめの早さ 8. 自分ができるなら、それでおしまい。
9. 仲間に教えてあげようという志向性の不足。10. H30年度からの体力の低下傾向。

小学校学習指導要領 体育科の目標

研究主題
「体育的身体活動を通じた心の教育」
～よりよく自分を高め、仲間と豊かにかかわり合えることを目指して～

目指す児童像

【低学年】 運動遊びの楽しさに触れ、行い方を仲間と工夫し合い、意欲的に運動する子	【中学年】 運動の楽しさや喜びに触れ、自己の運動についての課題解決をチームなどで工夫し、最後まで努力して運動する子	【高学年】 運動の楽しさや喜びを味わい、自己やグループの運動の課題解決を工夫し、自己の最善を尽くして運動する子
--	---	---

研究仮説
体育科における身体活動の中で、課題解決のために仲間と話し合い、よりよいプレーや記録の向上を達成できる児童の姿を明らかにしていく中で、学習内容に対しての指導の在り方を工夫し、主体的・対話的で深い学びのある学習を展開することができれば、自分を高め、仲間と豊かにかかわり合うことができるであろう。

研究の視点と手だて

①オリンピック・パラリンピック教育との関連 ◇英語力 ◇ コミュニケーション力 ◇ 多様性の理解	③学習過程の工夫 ◇ドリルゲーム、チームタイム、学習カード、ルールの工夫、導入時の映像資料視聴、学び始めの様子撮影と確かめ、課題解決のための場の設定 スポーツテスト・運動会への接続
②新学習指導要領との関連 ◇運動の楽しさや喜びを味わうための基礎的・基本的な「知識・技能」 ◇思考力・判断力・表現力等 ◇学びに向かう力、人間性等 ◇運動が苦手な児童への配慮 運動に意欲的でない児童への配慮	④「心の教育」につなげるための工夫 ◇声かけモデルの提示、アドバイスタイムの設定、少人数グループの編成、あったか言葉カードの活用、学習カードの活用、

検証授業

研究授業1年 「ボール投げゲーム」	研究授業2年 「ボール運び鬼」	研究授業3年 「タグラグビー」
研究授業4年 「プレルボール」	研究授業5年 「短距離走・リレー」	研究授業6年 「ハンドボール」

研究のまとめ (評価、授業改善)